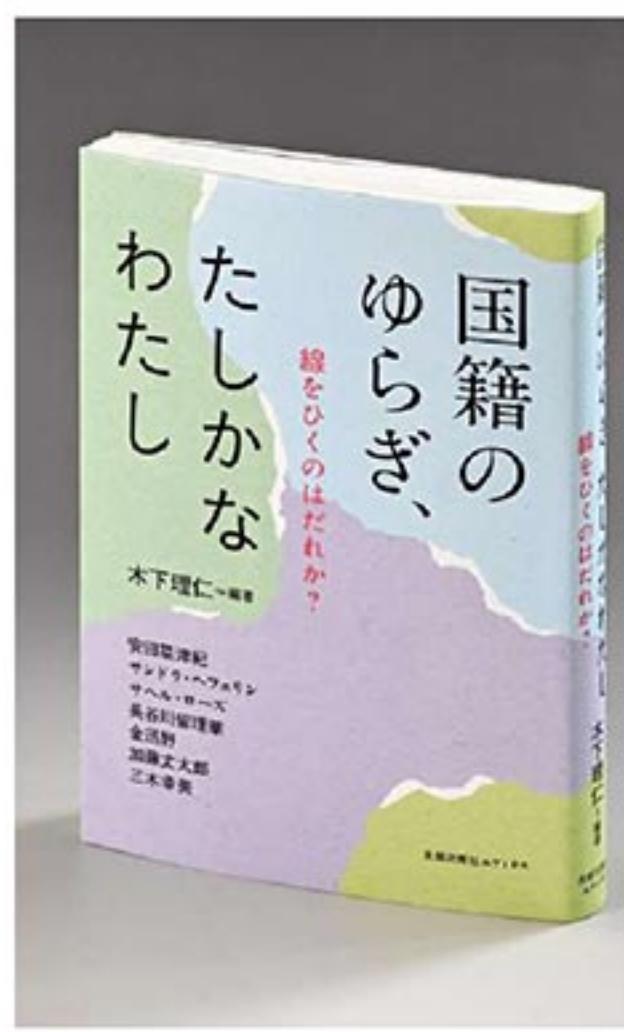


読書

国籍のゆらぎ、たしかなわたし
線をひくのはだれか?

木下理仁 編著



太郎次郎社工デ
イタス・2000円
きのした・よしひと
61年生まれ。ファシ
リテーター／コーディ
ネーター、東海大学非
常勤講師

本書は、編著者・木下理一氏
と執筆者との間に交わされた
「国籍」をめぐる対話である。
ただ、国籍を軸に据えてはいる
が、実際にはそれ以上にさまざま
な理由から「国境」を超えて移
動する人々の「routes(ル
ート)」に関する、密度の高い
交文であった。「routes」
残念ながら、マジヨリティで
ある「ふつうの日本人」にと
つて「当事者」の直面する障壁
について理解することは、難し
い。本書では繰り返し「知ること」と
「出会うこと」の大切さが